



平成19年8月2日

各位

会社名 ニチハ株式会社
 代表者名 代表取締役社長 井上 洋一郎
 (コード番号 7943 東証一部・名証一部)
 問合せ先 執行役員財務部長 南 光 正
 (TEL 052-220-5111)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向などを踏まえまして、連結、個別とも平成19年5月18日の決算発表時に公表いたしました平成20年3月期(自平成19年4月1日 至 平成20年3月31日)の中間業績予想及び通期業績予想(以下「前回発表予想」)を下記のとおり修正いたします。

1. 平成20年3月期 中間連結業績予想数値の修正(自平成19年4月1日 至 平成19年9月30日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	51,000	3,000	2,900	1,600
今回修正予想(B)	49,700	2,300	1,950	900
増減額(B-A)	△1,300	△700	△950	△700
増減率(%)	△2.5	△23.3	△32.8	△43.8
(参考) 前年同期実績 (平成19年3月期中間期)	47,323	2,991	3,013	1,784
前年同期比増減率(%)	5.0	△23.1	△35.3	△49.6

2. 平成20年3月期 通期連結業績予想数値の修正(自平成19年4月1日 至 平成20年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	102,000	6,200	6,000	3,300
今回修正予想(B)	100,700	5,500	5,050	2,600
増減額(B-A)	△1,300	△700	△950	△700
増減率(%)	△1.3	△11.3	△15.8	△21.2
(参考) 前期実績 (平成19年3月期)	96,815	6,098	5,922	3,093
前期比増減率(%)	4.0	△9.8	△14.7	△16.0

3. 上記の中間連結業績予想の修正の理由は以下のとおりであります。

(1) 売上高について

当社グループ主力製品の窯業系外壁材(以下「外壁材」)のマーケットである戸建住宅・低層アパートの新設着工戸数は本年2月以降前年比マイナスが続いており、この影響から外壁材業界全体の出荷数量は本年6月に入って前年を大きく下回り、当第1四半期でも前年同期比3.3%のマイナスに終わりました。また、最近では本年6月20日からの建築確認申請手続きの厳格化に伴い建築確認が遅延していることも加わり、外壁材業界全体の出荷数量は本年7月以降も当面は不振が続くと予想されます。当社グループは、住宅の耐震性を高める外壁下地用耐力面材「あんしん」の販売本格化や国内の非住宅、米国などの新市場に対する拡販に引き続き注力することなどにより前年同期比増収を見込んでおりますが、前回発表予想対比では、上記の新設住宅着工の低迷による外壁材の販売数量の未達などから、売上高は前回発表予想を下回る見込みであります。

(2) 損益について

①上記のとおり、主力製品の外壁材を始めとして売上高が前回発表予想比未達となることなどから、個別(当社)の営業利益が前回発表予想対比3億円の減益となると予想されます。

- ②当社グループは、海外市場を非住宅などの新市場の開拓と並んで今後の成長エンジンの一つに育てるべく、中国（2工場が平成18年4月、本年2月に各々生産開始）、米国（本年10月に生産開始予定）での窯業系外装材の製造事業の立ち上げを含め海外戦略の本格的展開を当期より開始いたしました。中国工場については順調に生産を開始しており、当面は日本市場向けの生産補完基地として運営してまいります。当中間期は、上記の海外戦略の下、一部の製品の生産について中国工場へのシフトを図ることや外壁材などの販売数量計画の下方修正に対応して生産調整を要することから、国内生産子会社において生産数量の減少が見込まれ、この影響などから国内子会社の営業利益が前回発表予想対比約6億円の減益となると予想されます。
- ③当社グループ全体の製造コストにつきましては、エネルギーなどの燃料や原材料価格の高騰がここ3年間続いており、当社グループは各種合理化施策によるコストダウンにより一部吸収してまいりましたが、合理化施策も限界に近づいている上、当中間期は生産子会社を中心とした生産調整もあり、合理化によるコストダウンの実現も前回発表予想を大きく下回ると見込まれます。
- ④当期は製造事業に係る海外子会社が本格的な販売開始前のため欠損となると予想しておりますが、上記海外子会社のうち、当期より新規連結子会社となりましたニチハ装飾繊維セメント壁板（嘉興）有限公司について、前回発表予想には織り込んでおりませんでした開業費用の一括償却額1億73百万円を当第1四半期に開業費償却として営業外費用に計上しているため、営業利益に比し経常利益が同額悪化しております。
- 以上により、営業利益、経常利益及び当期純利益は、いずれも前回発表予想を下回る見込みであります。

4. 上記の通期連結業績予想の修正の理由は以下のとおりであります。

当下半期の業績見直しにつきましては、窯業系サイディングに係るJIS規格の改正（窯業系外壁材業界の販売数量の凡そ半数を占める12ミリ厚製品の14ミリ厚品への移行など）に伴う製品販売構成の変動、新設住宅着工の今後の推移、高騰が続く燃料や原材料価格の今後の動向など、当下半期の業績に大きな影響を与える要因が少なくありません。しかしながら、現時点ではこれらの不透明な要因の業績への具体的な影響額を見極め難いため、今回の通期業績予想の修正については、当中間期の下方修正のみを反映させております。なお、通期業績予想の見直しについては、今後適時開示してまいります。

(参考)

1. 平成20年3月期 中間個別業績予想数値の修正（自平成19年4月1日至平成19年9月30日）

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	43,400	2,200	2,300	1,300
今回修正予想(B)	42,200	1,900	2,000	1,150
増減額(B-A)	△1,200	△300	△300	△150
増減率(%)	△2.8	△13.6	△13.0	△11.5
(参考) 前年同期実績 (平成19年3月期中間期)	40,215	1,990	2,140	1,246
前年同期比増減率(%)	4.9	△4.5	△6.6	△7.7

2. 平成20年3月期 通期個別業績予想数値の修正（自平成19年4月1日至平成20年3月31日）

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	86,800	4,700	4,900	2,900
今回修正予想(B)	85,600	4,400	4,600	2,750
増減額(B-A)	△1,200	△300	△300	△150
増減率(%)	△1.4	△6.4	△6.1	△5.2
(参考) 前期実績 (平成19年3月期)	82,574	4,130	4,257	2,498
前期比増減率(%)	3.7	6.5	8.1	10.1

以上